

第4回庭野平和賞奨励賞 贈呈理由



吉水岳彦師

国籍：日本

生年：1978 年

宗教：仏教

所属：浄土宗 光照院（浅草山谷光照院）住職
社会慈業委員会 ひとさじの会 事務局長
為先会 副代表

吉水岳彦師は、浄土宗僧侶として、長年にわたり生活困窮者や路上生活者のいのちと尊厳に寄り添い、仏教の慈悲の精神を社会の中で具体的に実践してこられました。

東京・山谷に生まれ育った吉水師は、身寄りのない元路上生活者の葬送と墓所の問題に向き合い、2008 年、支援団体及び当事者との話し合いを重ねて、共同墓「結の墓」の建立に携わりました。翌 2009 年には、若手僧侶らとともに「社会慈業委員会 ひとさじの会」を設立し、その中心となって、浅草、山谷、上野地域における炊き出しと夜回り、生活相談、身寄りのない人々の葬送及び追悼法要などを継続してきました。

吉水師の活動は、困窮する人々に食事や物資を届けることにとどまりません。路上で生活する一人ひとりと目線を合わせ、その声に耳を傾け、社会から孤立した人々を、支援の対象としてではなく、共に生きるかけがえのない隣人として受け止めるものです。生きている間だけでなく、亡くなった後にも、一人の人間として弔われ、記憶されることを大切にし、いのちの尊厳を最後まで守ろうとしています。

吉水師は、自ら仏道を求めながら、苦しみの中にある人々とともに歩み、その苦を少しでも和らげようと行動してきました。それは、仏教における菩薩行、すなわち慈悲を理念にとどめず、日々の具体的な行為として社会に現す実践にほかなりません。

庭野平和財団は、平和とは、戦争や暴力がないことだけを意味するものではなく、誰もが社会から見捨てられることなく、そのいのちと人格を尊重される状態がその基礎にあるべきものとして捉えています。吉水師の活動は、貧困、孤立、差別、そして死後の無縁化という、人間の尊厳を脅かす問題に向き合い、人と人とのつながりを結び直すことによって、日常生活の足元から平和を築くものです。

吉水師は、寺院を地域社会に開かれた資源として位置づけ、僧侶、生活困窮者支援団体、医療・福祉関係者、ボランティア及び地域住民が、それぞれの立場を尊重しながら協働する活動の形を築いてきました。食事の提供、生活相談、医療・福祉への橋渡し、葬送、追悼という一連の営みを、宗教者と市民社会との協働によって支えるその取り組みは、宗教的精神に基づく平和活動の実践モデルとして、他の地域や宗教者、市民団体にも広がり得る社会的な可能性を有しています。これは、人々の身近で具体的な課題に取り組み、平和な社会の構築につながる先駆的、萌芽的、実験的な活動を顕彰する庭野平和賞奨励賞の趣旨に深く合致するものです。

以上の功績をたたえとともに、吉水岳彦師の活動がさらに発展し、宗教者と市民社会との協働による慈悲と平和の実践が広く社会に波及することを願い、ここに第4回庭野平和賞奨励賞を贈呈します。